

小4 「今の自分」を話します

研究主題 「確かな国語力を育む国語教育のあり方」

一話す・聞く活動の活性化を図り、進んで伝え合う力を育てる指導の工夫―

日立市立中里小学校 安藤 桂子

1 はじめに

本校は、全校児童24名、複式学級が2つある小規模校である。平成23年度から小中一貫教育に取り組み、コミュニケーション科を立ち上げて、教育活動全体を通してコミュニケーション能力の育成に努めている。特にコミュニケーション科では、全校児童が毎週「英語」活動に取り組み、「ことば」の時間には、伝統文化の能楽や落語などを体験してきた。このように、様々な表現活動の場を設定し、実際に体験することを重視してきたことで、自分の考えを相手に伝えようと意識し、表現できるようになってきた。しかし、相手の話を受けて自分の考えを述べたり、自信をもって表現したりすることは苦手な傾向がある。また、今年度から小規模特認制度で学区外からの児童を随時受け入れ、児童の対人関係にも難しい面がでてきた。自他の違いを知り、互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力を育成することは、よりより人間関係を育てることにつながると考え、本主題を設定した。

そこで、国語科の学習においては、「話すこと・聞くこと」の単元を取り立てて指導していくことはもちろん、他教科や領域においても「伝え合う力」の育成を目指したい。学習指導要領の「話すこと・聞くこと」の中学年の目標は、「相手や目的に応じ、調べたことなどについて、筋道を立てて話す能力、話の中心に気を付けて聞く能力、進行に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、工夫しながら話したり聞いたりしようとする態度を育てる」とある。そのために、「話す・聞く力」アップカードを作成し、身に付ける力を明確にするとともに、書く活動を取り入れて話す・聞く活動の活性化を図っていきたいと考えた。さらに、本校の特色ある体験活動や交流活動などにおいても言語活動を工夫し、進んで伝え合う力を育てていきたい。児童はたった5名ではあるが、一人一人の学びのスキルやコミュニケーション能力の差が大きく、それぞれの児童に合った支援の仕方を工夫しながら学習を進めている。

2 研究の仮説

- (1) 相手意識をもって書く活動を取り入れ、分かりやすく伝えるための文章や話し方の工夫を指導をすれば、児童は筋道を立てた話し方や適切な言葉遣いを理解し、自信をもって話すことができるであろう。
- (2) 「話す・聞く力」アップカードを作成し、身に付けたい力を明確にした単元づくりをすれば、学習によって習得する力や目標を児童自らが意識できるようになり、話す・聞く力が高まるであろう。
- (3) 「話す・聞く」活動を他教科・領域等においても意図的に計画し、発表や交流などの場を設定すれば、互いに関わりあいながら伝え合う力を育てることができるであろう。

3 実践事例

(1) 学習指導案

〈本時の授業の仮説〉

話し方の工夫について話し合ったりスピーチ原稿に書き加えたりする活動を通して、話すこと・聞くことの視点を明確にすれば、意識して話したり聞いたりすることができるであろう。

1 単元名 「今の自分」を話します

2 目標

- スピーチをすることに興味をもち、自分の良いところを考えたり、友達のスピーチを自分と比べながら聞こうとしたりしている。(関心・意欲・態度)
- 伝えたいことをはっきりさせ、筋道を立てて、適切な言葉遣いで話すことができる。(話すこと・聞くこと)
- 話の内容や話し方に気をつけて聞き、質問をしたり感想を述べたりすることができる。(話すこと・聞くこと)
- 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3 単元について

本単元は、学級全員の前でスピーチをするという言語活動を通して、伝えたいことをはっきりさせてスピーチしたり、自分と比べながら聞いたりできるようにすることをねらいとしている。学級としてのまとまりが充実するこの時期に、自分の内面について語るスピーチ教材を通して、自分自身を見つめ、また、互いへの関心をより深めていくことが期待できる。自他への関心を持続させながら、最後に「スピーチ会を開く」ことにより、話す側聞く側の双方に、伝えたいことの中心をはっきりさせ

るための話す・聞く能力や態度を身につけさせていける学習になると考える。

本学級の児童は、話をすることが好きで、自分や家族の回りに起こった出来事をよく話す児童と、自分から進んで会話をすることが少ない児童とがあり、一人一人の個性や話す力の違いが大きい。スピーチに関して、5月に「案内係になろう」を学習し、相手や目的に応じた話ができることを目指した。児童は興味をもって取り組んだが、筋道を立てて話すというところまでには至らず、成果に個人差が見られた。また、実態調査の結果からも、根拠となる理由を明らかにして自分の意見を発表することや、場面や相手に応じた言葉遣いをするなどにも課題が見られる。これまで様々なスピーチを経験してきているが、この単元を通して、自分の成長や良さに気づき、肯定感が得られるような学習を進め、スピーチへの不安や抵抗を減らし、話すこと・聞くことの学習の楽しさが実感できるようにしたい。

〈話す・聞くことに関する実態調査〉 (男子2名 女子3名 計5名)

平成25年7月26日調査

○自分の考えや意見に理由をつけて発表することができますか。	はい 1名	いいえ 4名
○相手のスピーチに対して、質問や感想を言うことができますか。	はい 4名	いいえ 1名
○場面や相手に応じた言葉遣いで話すことができますか。	はい 2名	いいえ 3名
○相手の伝えたいことを考えて、話を聞くことができますか。	はい 3名	いいえ 2名
○スピーチするときに、どんなことに気をつけていますか。		
・大きな声ではっきり話す 5名	・相手を見てゆっくり話す 4名	
・よく分かるように話す 5名		

指導にあたっては、まず、成長した自分を他学年や先生方に知ってもらうためのスピーチするという場を設定し、目的意識や相手意識を明確にする。そして、自分自身に対しての取材、選材、構成、練習、本番という学習の見通しや、この単元で身に付けたいことを一人一人が意識し、主体性や向上心をもって取り組めるように学習計画表や「話す・聞く力」アップカードを作成する。分かりやすい話し方や的確な聞き方の習得には、組み立てメモやスピーチ原稿、フリップなど書く活動を取り入れ、理由や具体例などを挙げて筋道を立てて話すことができるようにワークシートの工夫を図っていく。スピーチする前に、自分の思いや願い、伝えたいことを明確に位置づけたり、相手に分かりやすく伝えられる構成や内容を考えたりする時間を取り、話すことへの抵抗感を少なくしたい。話し方の工夫については、言葉の強弱や間の取り方など友達と練習の成果を確かめ合い、高め合いながら学習を展開していきたい。

4 コミュニケーション能力との関連

スピーチという学習活動を通して、自分の考えや思いを効果的に伝える方法を学び、実生活に生かせるようにしたい。そのために、「話す・聞く力」アップカードを作成し、学習によって習得する力や目標を児童自らが意識できるようにして、自己・相互評価することにより、伝え合う力を育てられるようにする。また、友達と話し合いや練習などの相互交流の場を設定し、話し方の工夫に気づき、一人一人のコミュニケーションやスピーチの技能を高められるようにする。

5 学習計画（6時間取り扱い）

時間	学 習 活 動 ・ 内 容	評 価 の 規 準 ・ 観 点
1	・学習の見通しを持ち、自分を振り返って良いところや頑張っていることを成長したと感じることを書き出す。	・自分のことを振り返り、「今の自分」の良いところや頑張っていることについて考えようとしている。 (発言・取材メモ・行動観察)
2	・話す材料を集め、スピーチの組み立てを考え、組み立てメモを作る。	・伝えたいことが分かる材料を選び、具体例や考えを入れて組み立てを考えている。 (行動観察・組み立てメモ)
3	・組み立てメモをもとに、スピーチ原稿を書く。	・組み立てメモをもとに、話すときの文と文のつながりや言葉遣いを考えて、スピーチ原稿を書いている。 (行動観察・スピーチ原稿)
4	・スピーチ原稿をもとに、スピーチメモやフリップを作成する。	・スピーチ原稿をもとに、自分が伝えたいことや大事な言葉などをスピーチメモやフリップに書いている。 (スピーチメモ・フリップ・行動観察)
5 (本時)	・スピーチメモやフリップなどを使って、スピーチの練習をし、アドバイスし合う。	・話し方の工夫を考え、言葉の強調や間の取り方などに注意してスピーチの練習をしている。 (スピーチ・行動観察・振り返りカード) ・スピーチの内容や話し方の工夫について気をつけて聞き、感想や意見を述べている。 (発言・行動観察・振り返りカード)
6	・スピーチ会を開き、質問や感想を述べ合う。	・伝えたいことがはっきり分かるように、自分の考えや具体例を挙げたり、言葉の強調や間の取り方などに注意して話している。 (スピーチ・振り返りカード) ・話し手が質問したり感想を述べたりすることができる。 (発言・振り返りカード)

6 本時の学習

(1) 目 標

- ・話し方の工夫を考え、言葉の強調や間の取り方などに注意して、スピーチの練習をすることができる。
- ・スピーチの内容や話し方の工夫について気をつけて聞き、自分の感想や意見を述べることができる。

(2) 準備・資料

- ・学習計画表 ・「言葉の力」の拡大版 ・組み立てメモ ・スピーチ原稿のモデル
- ・スピーチ原稿 ・スピーチメモ ・「話す・聞く力」アップカード ・フリップ
- ・振り返りカード

(3) 展 開

①: 個に応じた支援 ②: コミュニケーション能力に関する支援 ③: 評価

展開	主な学習活動と予想される児童の活動・反応	教師の支援・評価
つ か む ふ か め る	1 フラッシュカードで「ことわざ」を音読する。	・既習事項を活用し、本時のための発声練習であることを意識させながら、楽しい雰囲気でもウォーミングアップの活動を行い、学習意欲を喚起する。
	2 本時のねらいと学習の流れを知る。 相手によく伝わるようにするには、どんな話し方の工夫が必要かを考え、スピーチの練習をしよう。	・本時はスピーチの発表会に向けて、練習し合う時間であることを学習計画表で確認し、「話す・聞く力」アップカードを配付し、課題意識を明確にもてるようにする。
	3 スピーチをするときに気を付けることや工夫することについて話し合う。	②これまでの自分のスピーチを振り返って、改善したい点や工夫したいことなど、自分の考えをまとめたメモを用意し、一人一人が発言できるようにしておく。
	・声の大きさ ・話す速さ ・聞く人を見て ・大事な言葉の強調 ・大事な言葉の前後や、話の区切りなどでの間	②机を円形隊形にし、友達の発言に対して、共感して励ましたり気付いたことを教えたりして話し合いを深めていく。
	4 スピーチ原稿に話し方の工夫を書き加える。	②話し合ったことを教科書の「言葉の力」を参考にしながら、確認したり、「話す・聞く力」アップカードの観点に付け加えたりして意識化を図る。
	5 一人でスピーチの練習をする。 ・スピーチ原稿をもとに ↓ ・スピーチメモ（組み立てメモ）	・どの部分を工夫するのかを明確にさせるため、スピーチ原稿を使って記号や簡単な言葉などを書き込むことで、話し方の工夫が分かるようにする。
	6 友達とスピーチの練習をし、アドバイスし合う。 ・伝えたいことが分かりやすいか。 ・話し方の工夫はどうか。 ・もっとこうしたらよくなったところはどこか。	・始めはスピーチ原稿を見て、一人での練習時間を設定し、慣れてきたらスピーチメモやフリップを使って練習するように促す。 ①スピーチに自信のないM子には、内容の分かる組み立てメモやスピーチ原稿を使って、安心して練習できるよう配慮する。
		・友達のスピーチを聞くときの留意点については事前に確認しておき、練習時間を確保する。 ・自分のスピーチと比べながら聞かせ、スピーチの内容や話し方の工夫について、良さや改善点を見つけて、感想や意見が伝え合えるようにする。 ①一人一人のスピーチを共感しながら聞き、練習で良くなっている所や優れている所を引き出し、賞賛や励ましの声かけを行い、自信へとつなげる。
		③話し方の工夫を考え、言葉の強調や間の取り方などに注意して、スピーチの練習をすることができたか。 (スピーチ・行動観察・振り返りカード) スピーチの内容や話し方の工夫について気をつけて聞き、自分の感想や意見を述べることができたか。

まとめ	7 本時の学習を振り返り、成果や次時の学習について確かめる。 ・振り返りカードに自己・相互評価する。	(発言・行動観察・振り返りカード) ・自分の練習成果や友達の良い点を発表し合い、次時への意欲を高めるようにする。
-----	---	---

(2) 指導の実際

①書く活動を取り入れた指導

ア 取材活動

自分のことについて家の人や先生、友達などに取材をして聞いてみた。先生方には事前に話をしておき、その子の成長したところや頑張っていることなどを話してもらい、大きめの付箋紙にメモするようにした。質問は相手を見て話し、話を最後まで聞き終わったら、大事な事柄だけを短い言葉でまとめるように意識させた。



イ 分かりやすく伝えるための文章と話し方の工夫 …資料 1・2

取材した中から自分が話したいことを選び、話す順序を考えて組み立てメモを作った。次にそれをもとにスピーチ原稿を作成していくが、組み立てメモの段階で分かりやすく伝えるための文章構成「はじめ」「中」「終わり」についてそれぞれの役割を理解させた。

「始め」……一番伝えたいことを最初に述べる。
「中」……理由や具体例を挙げて話す。
「終わり」…今後の目標や決意を述べる。

さらに、スピーチの原稿には、話し方の工夫を記号化して書き込み、発表まで繰り返し練習した。

< 間を取る ——— ゆっくり話す
↑ トーンをあげる ~~~~ 強調して話す



ウ スピーチメモ作り …資料 3

スピーチの練習のために、話の要点やキーワードを書いたスピーチメモを作成した。これを使って、各自が授業以外にも自主的に練習し、自信をつけていった。カードには、ナンバーリングや話し方の工夫などを書き入れたりするなど、覚えやすくするための方法をそれぞれが考えて作成した。

②「話す・聞く力」アップカードの作成と活用…資料 4

ア 身に付けたい力を明確にする

学習において身に付ける能力を、児童自身も意識して取り組むことで理解を促し、主体性と向上性が育まれると考えた。そして、指導事項を明確にするためにも「話す・聞く力」と「コミュニケーション力」アップカードを作成し、一人一人に持たせた。ただ話したり聞いたりするだけでなく、身に付ける能力ごとに達成する意欲と喜びを引き出すねらいもあった。アップカードは、学習過程に合わせて、「取材」「話し合い」「スピーチ(話す)」「スピーチ(聞く)」の言語活動の展開に合わせて、



○…「前学年までに身に付ける力」 ◎…「この単元で身に付けたい力」
が書き込まれてあり、身に付ける力が確かめられるようになっている。さらに自分で気をつけることなどを付け加えながら、達成レベルを自己評価して学習を進めていった。

イ 話し合い活動における支援

自分の普段のスピーチを振り返って、改善したい点や工夫したいことなどについて話し合う場を設けた。それによって、この後のスピーチ練習のポイントをお互いに理解して、アドバイスしたり共感し合ったりできると考えた。一人一人が発言できるように自分のスピーチの反省をメモ用紙に書いて用意しておいた。話し合いでは、司会進行や話のつなぎ役などを決めておき、「話す・聞く力」アップカードなども活用しながら、話し方の工夫についておさえられるよ

うにした。

ウ 自己・相互評価で学習の成果を確かめる …資料 5・6

学習計画表を作成し、学習の見通しをもって取り組み、それに合わせて自己評価や相互評価を行った。特に相互評価は、友達のよさや頑張りを書いてもらい、授業の終末に一人一人発表することで、身に付けた力や学習の成果を確認し、スピーチの発表に向けて意欲を高めていった。小さな進歩や工夫でも努力しているところを見つけ、教師も賞賛や励ましの声かけをするように心がけた。



〈相互評価「児童の言葉」〉

- ・間を取るところや強調するところをいしきして練習できていた。
- ・声のはやさや間の取り方がみんな上手にできていた。
- ・伝えたいことの理由や失敗談の話が入っていて、すごく分かりやすい内容になっていた。

また、相互評価や感想交流においては、「スピーチの内容」「話し方の工夫」「自分と比べて」など、スピーチを聞く視点をおさえて、自分の感想が具体的に話すことができるようにした。



③「話すこと・聞くこと」における言語活動の工夫

ア スピーチ発表会 …資料 5

学級 5 人でお互いにアドバイスしながら練習し、学習最後のスピーチの発表は 5・6 年生や先生方に聞いてもらった。全員、スピーチメモを見ることなく、発表することができた。5・6 年生には、一人一人に対し、「スピーチの内容」「声の大きさ」「話す速さ」「話し方の工夫」を記号で、聞いた感想のコメントを書いてもらった。その内容は後から児童にも伝えた。



【5・6 年生の感想】

- ・自分が昔と比べて成長したことを話していて、よく分かりました。
- ・表情が豊かで、話している人の顔を見て話していたのでよかったです。
- ・スピーチの中にその人の感情が表されていて、とてもいい文章でした。表情を笑顔にすると、聞いている方もうきうきすると思います。
- ・前の自分と今の自分について、内容がまとめられていて、話す速さや間もしっかりととれていました。
- ・自分のうれしい気持ちを内容に選んで書いていたので、自信をもって話していました。
- ・声が少し小さいけれど、間をあけてしゃべっていたので、聞きやすかったです。
- ・強調するところがうまく表現できました。

イ「総合的な学習」の発表



国語の「みんなで新聞を作ろう」の学習では、総合的な学習の時間に調べたことや地域に体験に行ってきたことなどを、新聞にまとめて発表した。作った新聞は、児童集会で全校生に聞いてもらった。

この発表では、新聞の記事をそのまま話すのではなく、低学年でも分かるような話し言葉に直したり、写真を用意して記事の内容を分かりやすく説明したりするなどの工夫や支援を行った。特に最後の「学習をふり返って」の感想は、自分の考えをしっかりと伝えるために聞き手を見て話すように心がけた。

ウ 異学年交流

国語の「みんなで話し合っ」の学習では、学級的人数が少なく寂しいので「もっと学校生活を楽しくするために」という議題で話し合いを行った。児童から「2学期最後にお楽しみ会をしたい」という意見が出て、4年生の企画で1・2年生と一緒に遊ぶ機会を設定した。低学年に楽しんでもらうために「どんな遊びをするか」を実際に1・2年生にインタビューして聞いて決めたり、遊び方やルールを話し合ったりした。分かりやすく説明するために大きな紙に書いたりするなど、これまでの学習を生かして、話し合いや書く活動が意欲的に進められた。異学年交流を設定したことで、相手や目的意識をもって話し合ったり工夫して書いたりするなど、お互いの考えや意見を伝え合いながら協力し合っ活動を進めることができた。



【1・2年生の感想】

- ・すごくいいせつめいでした。いいゲームができました。4ねんせいとあそべたのがうれしかったです。4ねんせいありがとうございました。
- ・せつめいがじょうずだったから、そのゲームのルールがきちんとわかりました。また、4年生のみんなとあそびたいです。
- ・お楽しみ会でルールのせつめいがとてもわかりやすかったので、ちゃんとルールをまもってできました。4年生とまたお楽しみ会みたいなのができるといいです。
- ・今日はとても楽しかったよ。せつめいひょうもがんばってつくってくれたんだね。いっしょにやりたい気持ちがよくわかりました。本当に楽しかったです。

4 研究の成果

(1) 仮説1について

スピーチの組み立てメモや発表原稿など書く活動を通して、自分の考えを整理し、話の筋道をまとめることにより、相手に分かりやすい文章表現や話し方の工夫を習得することができ、スピーチの苦手な児童も安心して一生懸命練習に取り組み、以前より自信をもって話すことができた。

(2) 仮説2について

この単元でどのようなことを学習して何を身に付けるのかを、学習計画表や「話す・聞く力」アップカードで確認しながら学習が進められたことは、児童にとって学習のねらいや自分なりの目標が明確になり、スピーチのレベルが上がって、達成感や満足感を味わうことができた。

(3) 仮説3について

国語科の学習以外にも、総合的な学習や異学年交流など「話す・聞く」活動を意図的に設定し、他者と関わる活動を通して、進んで自分の思いを伝えようとする意欲が高まり、相手の立場を考えて話したり共感的に聞こうとしたりする姿が見られるようになってきた。

5 今後の課題

- ・導入時に2年生のスピーチ発表を聞いた。それに刺激を受け、不安がる児童も頑張ろうと励まされたが、同学年のスピーチ発表のモデルを見せられるとよかった。発表の内容や話し方の工夫などが参考となり、学習の目標への意識や意欲をもっと高められたかもしれない。
- ・「話す・聞く力」アップカードをいろいろな学習場面において活用し、評価と指導の一体化を図りながら一人一人の能力の成長を促していきたい。
- ・話し合いがもっと活発になるように、いろいろな単元で学習課題や題材などを工夫していきたい。協同して問題解決したり新たなアイデアを創出したりするなど、自分の考えを伝え合うことの楽しさを実感できるような話し合い活動を通して、さらに「話す・聞く力」を育てていきたい。
- ・書く活動を取り入れて「話す・聞く力」を高めるだけでなく、日常の生活において、相手の話を受けてすぐに返したり自ら話題を提供したりする「対話力」をもっとつけていきたい。それには、他者と進んで関わり、相手の立場や考えを受け入れようとする素直な気持ちを育てることも大切であると感じた。

参考文献：「小学校学習指導要領解説 国語編」
：「言語活動の充実に関する指導事例集」

文部科学省
文部科学省